



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)3月15日号 No.1985

目次

■ 2024年のロシアの北極海航路の貨物量	1
■ 統計速報	6
2024年のロシアの貿易／6	
■ トピックス	7
五常・アンド・カンパニー、タジク銀Arvandへ出資／7	
トランプ米大統領、対ロ制裁強化を検討と発言／7	
北海道経産局、中央アジア進出支援サイトを開設／7	
ウクライナ、30日間の停戦受け入れの用意／7	
四国電力、再エネ事業でウズベク進出へ／7	

2024年のロシアの北極海航路の貨物量

解説

北極海航路の取扱貨物量の2024年の実績を入手したので、本号では、早速このデータを図表にまとめてお届けする。

昨年1年間の北極海航路の貨物輸送量は3,789万tと、前年と比べ4.5%の増加となった。このうち、液体カーゴは3,218万tと7.5%の増加となった。一方、ドライカーゴは571万tと9.6%の減少となった。

貨物輸送量は10年前の2014年には371万tだったが、2017年に「ヤマルLNG」、2024年には「アークティック2」での液化天然ガス(LNG)の出荷がそれぞれ開始されるなど、北極圏での資源開発が進展したことで、2021年を除いて一貫して増え続け、この10年間で10倍となった。戦争と制裁下という状況でも成長を続け、2024年は過去最高となった。

2024年を振り返ると、西側諸国による制裁強化で、資源開発プロジェクトや輸送船が制裁対象となり、出荷ができなくなったり、寄港を拒否されたりするなど予想もしなかった事態に翻弄された1年だった。貨物輸送量は過去最高となったものの、前年より163万t増にとどまり、それまでの勢いはなかった。

ノヴァク副首相らは2024年初に貨物量を4,000万tと見込んでいた。実績は見込みを200万tほど下回った。ヴォストークオイルやレムベロフスコエ炭田など北極圏での資源開発が計画より遅れていること、アークティック2が制裁対象となり、計画通りに出荷できなかったことなどが要因である。

プーチン大統領は、2018年5月の大統領令「2024年までのロシア連邦発展の国家目標と戦略